

新美南吉記念館では、7月13日から10月27日まで安城下宿80周年特別展「日本丁抹と南吉の暮らし」を開催します。

* * *

昭和13年から安城高等女学校で教師をしていた新美南吉は、当初半田から鉄道で通勤していました。しかし、戦争による交通事情の悪化と、「職員は学校の付近に居住すべし」という県の通達を受け、ちょうど80年前の昭和14年4月頃から、安城の新田にある大見家に下宿し始めました。このころの安城と南吉の暮らしについてご紹介します。

安城を含む碧海台地は、昔から水不足に悩まされてきました。しかし、明治期に明治用水が開削され豊かな水源を得ると急速に開墾が進み、安城町には県立の農林学校、農事試験場なども設置されました。第一次世界大戦後、全国的には農産物の価格は低迷し、農家の経営は苦しくなっています。それでも、安城を中心とした碧海郡では産業組合をつくり、農村を近代化して

いたことから農業先進地域として発展しました。農業国家として知られたデンマークに注目して、大正末期から昭和初期には、「日本丁抹」と呼ばれるようになりました。すると日本丁抹を参考にしようと、全国から視察者が訪れるようになり、安城駅周辺には彼らを相手とした旅館や食堂が並びました。

新美南吉の詩「梨」には、安城を潤した明治用水が登場します。南吉は安城に下宿すると、新田から女学校まで2km余りを毎日歩いて通いました。村落の周囲に広がる田畑を抜け、東海道路線の踏切を渡って、安城駅周辺の様々な店の立ち並ぶ街中へと入ってきます。下宿で炊事しないこともあって、食事はほとんど外食でした。特に食堂の川本は、出勤前の朝食、昼の出勤帰りの夕食でよく利用し、ときには食事の後に店の主人と碁を打って帰ることもありました。

南吉は、豊かな水のある農村と、単身の男性でも暮らし

やすい街の両方の要素を兼ね備えた安城で暮らし、作品を創りました。

今回は下宿先の大見家についてご紹介します。

「梨」 新美南吉

昭和一七・一〇・五

小川の底を梨が
ころがって来た
吉澤梨園からか

もつと川上の今村あたりの
梨畑からか
(中略)

梨は一ひら二ひらの雲の下を
水底にうつる影とともに
ころころところがって
行くだろう



南吉がよく利用した川本

アンケート

- Q1 今号でよかった内容や写真があれば教えてください。
- Q2 今号を読んだことがきっかけで行動したこと、または、したいことはありましたか。
- Q3 市報で取り上げてほしい内容や企画、広報に関するご意見・ご感想などありましたらお聞かせください。

回答方法

住所、氏名、年齢、アンケートを書いて、ご送付ください。

あて先

〒475-8666
東洋町2-1 企画課
Eメール
kouhou@city.handa.lg.jp



みなさん、夏バテにはなっていないでしょうか。クーラーの効いた室内と暑い室外との温度差で、自律神経が乱れてしまうことが原因と言われています。夏バテには、水分補給、十分な睡眠、軽い運動、栄養バランスの良い食事が効果的です。

私は夜、軽いジョギングをすることを心掛けています。体を動かすことで、食欲増進や睡眠促進の効果が期待できますし、気分もリフレッシュできるのでオススメです。

(浅野)

編集後記